

大分県



大分県の

歴史的農業水利施設Ⅰ

—— 美しい農業施設〈農業用水路・ため池他〉 ——

施設位置図



大分県にはちより多くの農業水利施設がある。
その施設は、
周囲の景観と調和していて美しい、
開発にともなう多くの伝説を持っている。
地域の人々を励ます力を持っている。
これらの施設を一冊に取りまとめ、
現地への道を示し、農業水利施設を
見学できるようにした。
水利施設の美しさの中に、
先人の苦勞と気概と農業の未来を
見つけられるだろうか。

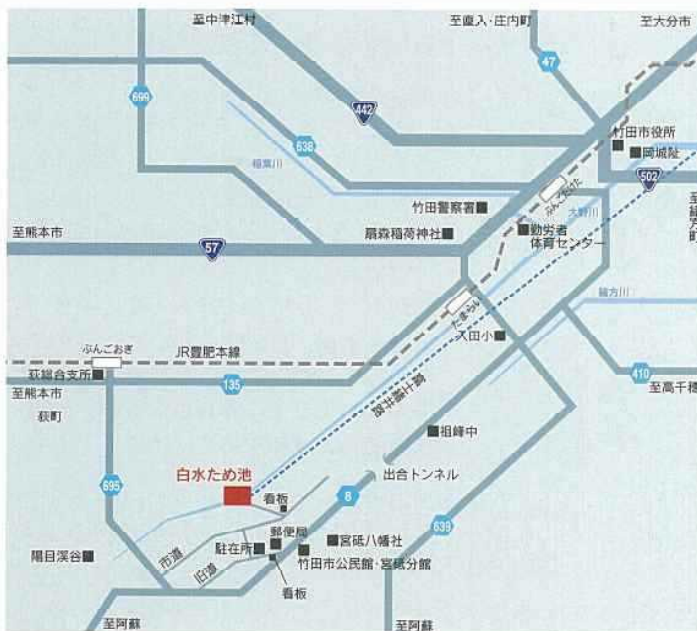
CONTENTS

- 01 白水ため池(富二緒井跡土地改良区)
- 02 第一洪水橋(明正土地改良区)
- 03 若宮井跡 笹無田石洪橋(朝地町土地改良区)
- 04 御澄池(鷹神社、荒瀬井堰土地改良区)
- 05 石垣井跡(竹田市土地改良区明治岡本工区)
- 06 右田井跡通水橋(九重土地改良区右田工区)
- 07 円形分水(竹田市土地改良区音無工区)
- 08 一ノ瀬灌池(伊美郷土地改良区)
- 09 長谷渚井路・分水器
- 10 狭柏原土地改良区通水記念碑
- 11 緒方井跡
- 12 古後井跡
- 13 田染の荘・小崎地区
- 14 渡邊伝左衛門の碑
- 15 小ヶ瀬井路
- 16 元治水井路之碑
- 17 提子井跡之碑
- 18 初瀬井跡之碑
- 19 横瀬水踏橋
- 20 富水池
- 21 吳崎干托
- 22 工藤三助の不動明王(西福寺)
- 23 野津原三渠の碑
- 24 大竜井跡
- 25 昭和井跡大野川水管橋
- 26 師田原ダム
- 27 千町無任
- 28 神原溪谷大橋
- 29 香下ダム
- 30 小田井堰
- 31 由布川奥詰
- 32 内成棚田
- 33 軸丸北
- 34 山浦早水
- 35 両合棚田
- 36 羽高棚田





富士緒井路の水源として昭和9年着工、同13年完成した。
「日本一美しいダム」として平成11年に国の重要文化財の指定を受けた。
「粗石コンクリート造り越流式重力ダム」



白水ため池の受益である軸丸村、小富士村の地域は水利に恵まれなかった。耕地の8割は畑地で、残りの2割が谷間の湧水を利用する、いわゆる迫田であった。

明治40年、長年の水にたいする思いが具体化され、富士緒井路水利組合の設立となり、同44年井路開削工事の起工式、大正3年富士緒井路通水となった。

渇水対策のために、安定水源として白水ため池を造成することとなり、昭和9年に着工し、昭和13年に完成した。

また、草深野、片ヶ瀬の両台地への揚水電力確保のため井路用水を利用した発電所を計画し、これも大正3年に完成した。

現在この発電施設に加え第2発電所も昭和59年に完成し、売電益が土地改良区の運営に大きく貢献している。

Data	建設年	昭和9年～昭和13年(1934年～1938年)
	所在地	竹田市大字次倉
	その他	
	お問い合わせ	富士緒井路土地改良区 tel. 0974-42-2203

【諸元】
堤高:14.1m
堤長:87.26m





明正井路の水路橋として、大正8年に完成した。
主要地方道竹田五ヶ瀬線を跨いでいる。
平成14年度に選奨土木遺産を受賞した。



明正井路は大野郡上緒方、緒方、合川牧口村のうちの15大字のかんがい用水施設として開設された。

緒方川の上流にある直入郡入田村大字門田から取水、幹線水路48km、支線水路127kmの井路である。

大正6年に着工、幾多の紆余曲折を経て同13年に竣工した。

県技師矢島義一は福島県出身で、明治42年より、井路開削の調査測量設計に従事し、完成に向け日夜東奔西走した。終始、急峻な地形、強固な岩盤、建設工事資金に悩まされたが、大正13年に通水の運びとなった。

Data	建設年	大正8年(1919年)
	所在地	竹田市大字門田
	その他	水田462ha、組合員606人
	お問い合わせ	明正土地改良区 tel. 0974-42-3328

【諸元】
橋長:78.0m
橋幅:2.8m
形式:6連橋





若宮井路の水路橋として、明治34年(1901年)に通水した。市道と笹無田川を跨いでいる。

石橋の周囲には、種々の型式の橋があり、さながら「橋の博物館」である。

笹無田の五橋(①若宮井路笹無田石拱橋、②JR鉄橋、③市道梅の木竹ノ脇線笹無田橋、④国道57号線・笹無田橋、⑤国道57号線・新笹無田橋)



若宮井路は、稲葉川に水の取入口を設け、本線延長20km、支渠・分渠からなり、朝地町の134haの耕地を受益としている。

笹無田石拱橋は、当初は、鉄管によるサイフォン方式であったが、明治36年に腐食し、崩壊した。

仮設木造橋の時代を経て、大正四年(1915年)に石拱橋に架けかえられた。しかし、翌年に再び壊れたため大正六年(1917年)再建され現在に到る。



Data	建設年	大正六年(1917年)
	所在地	竹田市大字挾田
	その他	国登録有形文化財 石造二連アーチ橋 長さ59m幅4m
	お問い合わせ	朝地町土地改良区 tel. 0974-72-1152

〔諸元〕

橋長:59.0m

幅 :4.0m

高さ:30.0m

形式:石造2連アーチ橋

工事棟梁:川野茂太郎



空から見た御澄池(古図とよく合う)



御澄池古図



御神体は「池」

沖代(中津)平野の水源として、5世紀以降に完成した。池が、神社の内宮(御神体)となっている。宇佐神宮の御神体の御験(みしるし)は、マコモ(真薦)の枕であり、そのマコモ(真薦)の自生地である。



Data

建設年 5世紀以降
所在地 中津市大貞
その他 秦氏の一族が造ったといわれている。
お問い合わせ 薦神社 社務所 tel. 0979-32-2440
荒瀬井堰土地改良区 tcl. 0979-32-2306

御澄池は、三角池とも書き、別名「薦の池」・「大貞の池」とも呼ばれている。文献によると「養老4年(西暦720年)、日向・大隈の単人の反乱に対し、大伴旅人を征夷大將軍とする征討軍は八幡神を奉じて鎮庄に向かった。その時の御輿には、御澄池に自生するマコモ(真薦)で作った枕形の御験(神を表すもの)が乗せられていた。」と、池の存在が記されている。

池の歴史は古く、洪積台地の旧河道を利用した皿池である。日本で最も古い灌漑用の池ではないとも言われており、堤体は大陸渡来の版築工法で築造されている。池畔には薦神社(大貞八幡社)があり、池は神社の内宮(御神体)となっているので、池内には鳥居が鎮座している。八幡の由緒を記した「八幡宇佐宮御託宣集」によると、「薦神社は宇佐神宮の祖宮であり、その八幡社の御神体は御澄池に自生するイネ科の薦を刈り取って御枕としたものである」と記されている。

[諸元]
有効貯水量: 124,000t
堤 高: 4.0m





明治岡本井路の水路として、大正10年(1921年)に完成した。大正2年(1913年)に完成し掛通部分を改修したものである。丘陵地の尾根を走る姿は、万里の長城を連想させる。平成8年に国登録有形文化財となった。



Data	建設年	大正10年(1921年)
	所在地	竹田市大字植木
	その他	水田134ha、組合員319名(明治岡本工区)
	お問い合わせ	竹田市土地改良区 tel. 0974-63-1822

古来より、明治岡本井路受益地の三宅郷は豊饒の土地として有名であった。しかし、いたる所に丘陵があり、溪流があっても水田は少なく、耕地の7割は段々畑であった。

明治40年、水路築造に造詣の深かった、飛田川の大庄屋工藤虎彦、山口猛両氏を中心に水路開削の機運が高まった。同43年明治岡本耕地整理組合が設立され、工事着手し、大正2年通水となった。

石垣水路は当時箱樋であったものを大正10年に改修したものである。

取水源の選定で、工藤虎彦、山口 猛両氏の対立があり、時の県会議員大津音一、村長大津精の意向により現在の位置に決定したというエピソードがある。

〔諸元〕
 水路延長：231.4m
 水路断面：0.8m×0.8m
 石垣の高さ：3.5m～5.5m





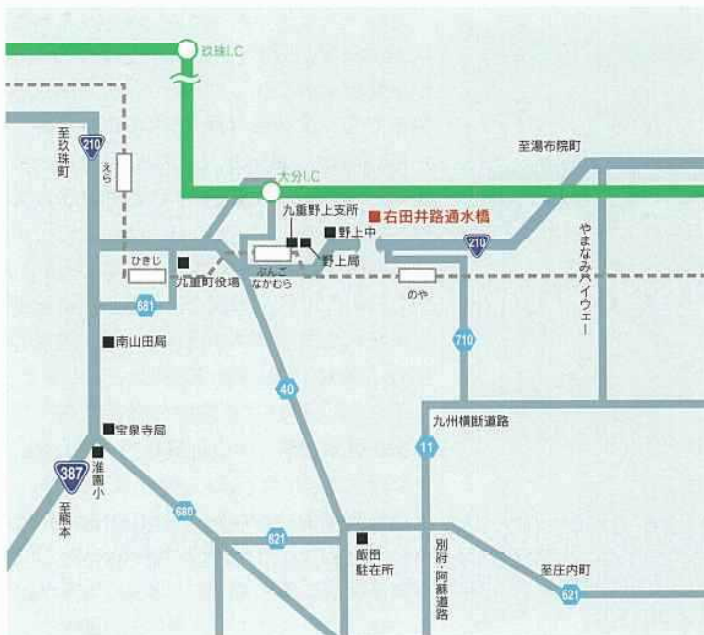
■現在の右田井路通水橋
上方に九州横断自動車道が見える。



■竣工当時の右田井路通水橋



右田井路の水路橋として明治38年(1905年)に完成した。平成元年に九重町指定有形文化財(野上石橋群)となった。各瀑龍門の滝に近い。



Data	建設年	明治38年(1905年)
	所在地	九重町檜原
	その他	水田73ha、組合員17人(右田工区)
	お問い合わせ	九重土地改良区 tel. 0973-76-2425

明治3年に右田井路開削の話が出た時、麻生親八氏の養父の東江は、一家の財産を投げ出してまで努力したが、中止のやむなきに到った。親八は、先代の遺訓と遺志を継ぎ、個人で行うのは困難として、明治33年井路再興を計画するに当たり、東飯田村長麻生新一、野上村長佐藤慈光らと、水利組合を創立することとした。

明治34年、組合設置の認可を得て、工事に当たったが、負債の償還が危機に瀕し、親八は私財1,000円で組合の危急を救い、さらに1万1,500円の起債で水路延長改修の計画をした。しかし、日露戦争により国内の公私起債が厳禁となった。この事業の成否は、即ち、村の興亡であったので、親八は時の大久保利武知事に陳情し起債の認可を得て、実に40年間興亡波瀾を極めたこの事業も遂に完成することとなった。

[諸元]
橋長:11.30m
橋幅:3.75m 内幅:1.15m



音無井路の分水施設として、昭和9年(1934年)に完成した。
明治31年(1898年)に完成した音無井路は水の分配方法で争いが絶えなかった。
この施設の完成で水争いも終焉した。



音無井路開削は元禄6年(1693)太谷川より入田郷(宮砥村、姫兵村、入田村)への水路開削工事として計画された。九重野地域までの完成を見たが、災害により施設が大破し復旧の目途が立たなくなったため岡藩土須賀勤助は割腹して藩主に詫言したとされている。

その後、寛保3年(1743)、天保7年(1836)、文久2年(1862)と幾度も井路建設の計画が立案されたが、急峻な地形条件、固い岩質のため、工事費の調達が出来ず断念されてきた。

明治9年、再び水路開削の機運が高まり調査を開始、同16年に工事着手、同16年に一部通水、同31年完成した。

水路完成後、各地域への水の分配方法で争いが絶えなかったが、昭和9年、限られた水量を面積に応じて3本の水路に分水するこの施設の完成により水争いも終焉した。

Data	建設年	昭和9年(1934年)
	所在地	竹田市大字九重野
	その他	水田583ha、組合員1132人
	お問い合わせ	竹田市土地改良区 tel. 0974-63-1822

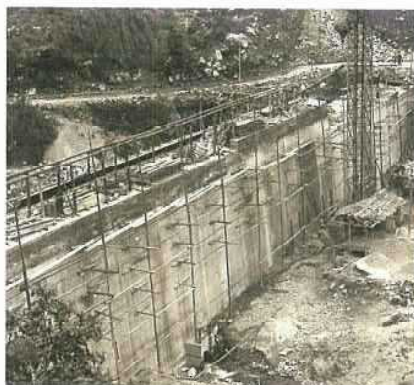
〔諸元〕

直径:6.42m

この円形分水は、12号分水ともいう。四角の穴は20個あり、1着線には5個、2着線には8個、3着線には7個と、水路に穴が割り振られている。



1) 昭和16年4月 起工式



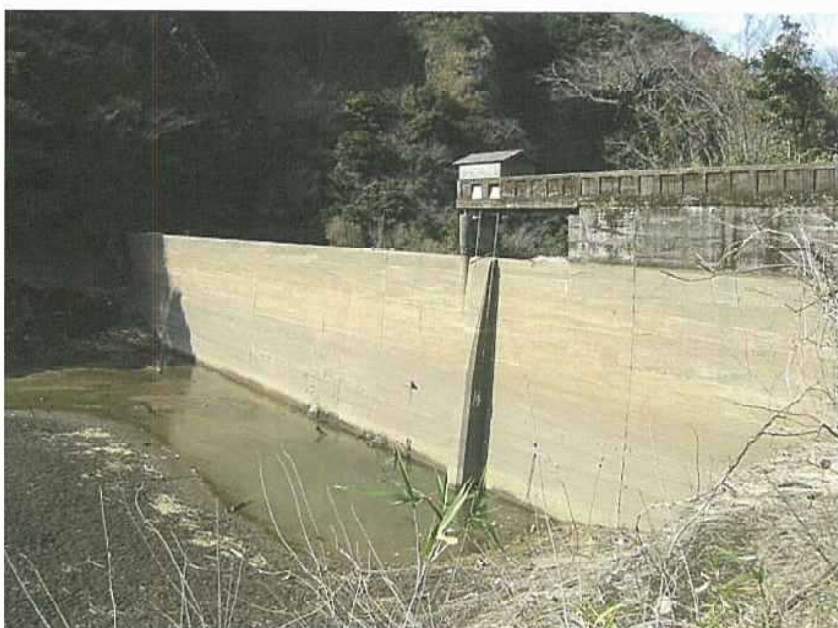
2) 昭和17年12月 福島県今泉組 工事中



3) セメント入手困難も克服



4) 昭和19年8月完成



5) 現在の一ノ瀬溜池

伊美郷の水源として、昭和16年(1941年)に着工し、同19年(1944年)完成した。
この施設の完成で伊美郷の旱魃被害が、なくなった。
周囲に六郷満山仏教遺跡(千燈寺跡、五輪塔郡等)が多い。



県営一ノ瀬溜池築造記より

「…昭和14年は近年希な大被害を被り…
全水田150町余のうち8割の被害を見るに至った。…発起人会を結成するに至った。…」

昭和15年4月の県議会において、県営事業として、議決された。…その後、農林省と折衝したけれども認可の様相が見られない由…

政治的運動を起こすべく当時、大分県選出代議士綾部健太郎先生を自宅に表敬訪問、協力をお願いした…翌日、農林省への御同行を得て、請願したが…工事金額と受益地の受益者が少ないために不認可となったことが明瞭となった。…綾部先生の御尽力により工事は県営事業として国会の決定の上、認可された。…」

往時の苦勞が偲ばれる記録である。

Data

建設年 昭和16年～昭和19年(1941年～1944年)
所在地 国東市国見町赤根
その他 貯水量 246千t
お問い合わせ 伊美郷土地改良区 tel. 0978-82-1027

【諸元】

堤高:15m
堤長:131.8m
貯水量:246,000t





大分県農林水産部 農村整備計画課
農村基盤整備課
tel:(代)097-536-1111

東部振興局	農林基盤部	tel:0978-72-1215
東部振興局	日出水利耕地事務所	tel:0977-72-2018
中部振興局	農林基盤部	tel:097-506-5743
南部振興局	農林基盤部	tel:0972-22-1102
豊肥振興局	農林基盤部	tel:0974-63-1175
豊肥振興局	豊後大野事務所水利耕地部	tel:0974-22-0202
豊肥振興局	大野川上流開発事業事務所	tel:0974-68-2723
西部振興局	農林基盤部	tel:0973-23-2208
北部振興局	農林基盤部	tel:0978-32-0149